

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察技術情報第 21 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 21 号（ナシ黒星病防除の徹底について）を発表したので送付します。

黒星病の最も重要な薬剤防除時期は、開花直前から満開 20 日後です。防除適期を逸しないようご指導願います。

技術情報第 21 号

ナシ黒星病の防除の徹底について

- 1 対象作物名：ナシ
- 2 病虫害名：ナシ黒星病
- 3 越冬菌密度の予測

本年の黒星病の越冬量はやや多いと考えられる。

(1) 前年の発生状況

前年の 8 月の調査における県下 11 か所平均の発病葉率は、地点による差が大きかったものの 1.0%（平年 1.4%、前年 1.4%）と平年並であった（表 1）。

(2) 前年秋期の気象状況

前年の感染適期（10 月中旬～11 月上旬）の積算降水量は 182mm（平年 74.5mm：アメダス太宰府）と平年より 2.4 倍程度多かったため、秋期のナシへの感染が助長されたと考えられる。

表 1 平成 29 年 8 月 2 半旬調査における黒星病発病葉率

地点	品種	発病葉率
A	豊水	1.7
B	豊水	1.7
C	豊水	0
D	豊水	-
E	豊水	1.7
F	豊水	0
G	幸水	3.3
H	幸水	0.3
I	幸水	0
J	幸水	0
K	幸水	0.8
本年		1.0
前年		1.4
平年		1.4
本年発生ほ場率		60.0
前年発生ほ場率		80.0
平年発生ほ場率		54.0

4 発生生態

- (1) 第一伝染源は、越冬場所である罹病落葉と芽基部内の感染した鱗片組織である(図1)。
- (2) 第一伝染源からの孢子飛散は開花直前から20日頃まで多く、芽基部病斑は6月中旬ごろまで孢子を形成する。
- (3) 第一感染源に形成された孢子は風雨により飛散し、若い葉や花や幼果に付着し感染する。
- (4) 感染から発病までの潜伏期間は長く、3週間程度である。
- (5) 果実の感受性が高い期間は、品種にかかわらず開花直後から20日程度である(「幸水」「豊水」は5月上旬頃まで高い)。果実の感受性は、その後徐々に低下するが、「幸水」の果実は開花60日後以降、再び感染しやすくなる。

5 防除対策

- (1) 芽基部病斑や発病葉は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。(芽基部病斑は、鱗片脱落期になっても鱗片が脱落しないことが多い。)
- (2) 黒星病の最も重要な薬剤防除時期は、開花直前から満開20日後である。
- (3) 薬剤感受性の低下をさけるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (4) 薬剤防除にDMI剤 (FRACコード:3) やQoI剤 (FRACコード:11) を用いる場合は、薬剤耐性菌の発生リスク低減のため年間の使用回数を遵守する。特にDMI剤を用いる場合は、保護殺菌剤と混用することにより防除効果の維持が期待できる(詳細は、平成30年度版病害虫雑草防除の手引き 3防除方法の試験研究成果等 【3-5】果樹 IV ナシ黒星病菌のDMI 剤感受性とDMI 剤と保護殺菌剤の混用効果 (P11~12) を参照)。

http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/295937_53059503_misc.pdf

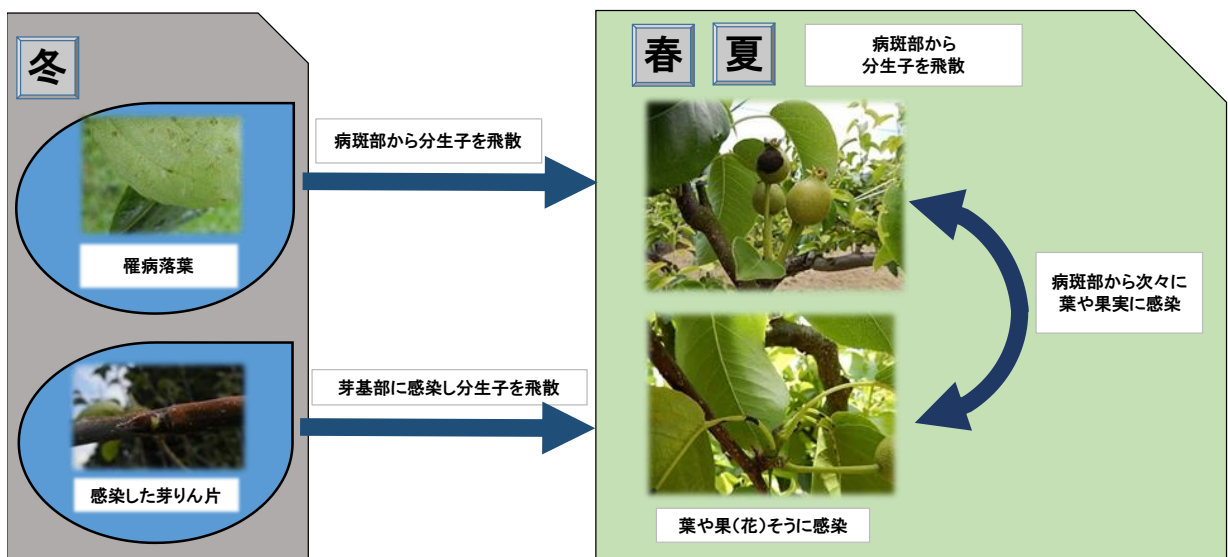


図1 ナシ黒星病の果実や葉への感染模式図

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況